

※本学図書館で所蔵している本は書名に赤線を引いています。資料ID番号で検索すると利用状況がわかります。

【短期大学部 保育科】

1

- (1) 書名 ちいさい言語学者の冒険：子どもの学ぶことばの秘密
- (2) 著者名 広瀬友紀
- (3) 出版社名 岩波書店
- (4) 配架場所 7階開架閲覧室
- (5) 請求記号 408/I95/259 (資料ID 04113500)
- (6) 推薦コメント

子どものあたまの中で今まさに起きていること、私たちのあたまの中でかつて起きていたこと、日ごろ当たり前のように使っている「ことば」について考えてみませんか。

私たち大人が今は思い出せない「ことばを身につけた過程」や、直接のぞけない「頭の中の言葉の知識のすがた」を本書に登場する子どもの姿を借りて探ってみましょう。子どもが言語学者として冒険の旅をしている姿を一緒に楽しんでみましょう。

2

- (1) 書名 障害を持つ息子へ：息子よ。そのままで、いい。
- (2) 著者名 神戸金史
- (3) 出版社名 ブックマン社
- (4) 配架場所 7階開架閲覧室
- (5) 請求記号 916/Ka32 (資料ID 04140923)
- (6) 推薦コメント

自閉症の子をもつ筆者は、息子に語りかけています。「あなたが生まれてきてくれてよかった。」「老いて寝たきりになる人は、たくさんいる。事故で、唐突に人生を終わる人もいる。人生の最後は誰も動けなくなる。誰もが、次第に障害を負いながら生きていくのだね。息子よ。あなたが指し示していたのは、私自身のことだった。」と。

写真もたくさん載っていて、分かり易い本です。

3

- (1) 書名 未来のだるまちゃんへ
- (2) 著者名 かこさとし

※本学図書館で所蔵している本は書名に赤線を引いています。資料ID番号で検索すると利用状況がわかります。

- (3) 出版社名 文藝春秋(文春文庫)
- (4) 配架場所 7階開架閲覧室
- (5) 請求記号 726.5/Ka27 (資料ID 04164440)
- (6) 推薦書評コメント

「だるまちゃんとてんぐちゃん」、「からすのパンやさん」等の絵本の作者であるかこさとし氏の自叙伝であり、子供たちに託すメッセージ。

4

- (1) 書名 いやいやえん (福音館創作童話シリーズ)
- (2) 著者名 中川季枝子
- (3) 出版社名 福音館書店
- (4) 配架場所 5階こども図書館
- (5) 請求記号 913.8/N32 (資料ID 02693690)
- (6) 推薦コメント

1962年に出版されて以来のロングセラーです。「いやいやえん」に通うことになったしげると一緒に、くじらとりに行ったり、やまのこぐちゃんに会いに行きませんか？

子どもの生き生きとした心の動き、心のひだが見事に描かれている不朽の名作です。

5

- (1) 書名 保育者のちょっとしたマナーと心配り
- (2) 著者名 清水エミ子
- (3) 出版社名 学陽書房
- (4) 配架場所 6階開架閲覧室
- (5) 請求記号 376.14/Sh49 (資料ID 13630585)
- (6) 推薦コメント

子どもと共に育つ保育者のちょっとした声掛けや心がけを読みやすく分かり易くまとめた本です。保育者となる人だけでなく、子育てに関わる全ての皆さんに読んで欲しいと思います。

※本学図書館で所蔵している本は書名に赤線を引いています。資料ID番号で検索すると利用状況がわかります。

6

- (1) 書名 虫目で歩けば:虫愛づる姫君のむかしから、女子だって虫が好きでした。
- (2) 著者名 鈴木海花
- (3) 出版社名 ブルース・インターアクションズ
- (4) 配架場所 7階開架閲覧室
- (5) 請求記号 486.04/Su96 (資料ID 04029135)
- (6) 推薦書評コメント

これが「流し目で…」なら男性の気を惹くのでしょうか、「虫目で…」なんです。著者曰く「自分のまわりの自然のディテールの美しさやおもしろさが発見できる目」だそうです。ナルホド。その辺りで見かける虫に少しばかり近寄って撮ったカラー写真がふんだんに添えられた、気軽に読めるエッセーです。しかも、何よりもこの本の著者は「虫愛づる」女性。夏休みのひと時、ページをばらばら繰って「虫目」になれば、普段見過ごしていた、あるいは食わず嫌いだった自然の細やかさ、奥深さがあなたを魅了するに違いありません。

7

- (1) 書名 モモ：時間どろぼうと、ぬすまれた時間を人間にとりかえしてくれた女の子のふしぎな物語
- (2) 著者名 ミハヤエル・エンデ
- (3) 出版社名 岩波書店
- (4) 配架場所 7階開架閲覧室
- (5) 請求記号 943/E59 (資料ID 02774666)
- (6) 推薦書評コメント

初めて読む方も、小学生のときに読んだ方も、大人になってぜひもう一度読んでほしい一冊です。みなさん「時間貯蓄銀行」にどれくらい時間をお預けですか？そう、あなたの時間のことですよ！！